

(別添)

2019年3月19日

NITE (ナイト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構

中部支所

News Release

春本番、自転車の思わぬ事故に注意！ ～安全のために知っておきたいポイント～ ～ 東海4県版 ～

NITE (ナイト) に通知された自転車による製品事故情報^{※1}は、2013年度から2017年度までの5年間に東海地方4県(静岡県、愛知県、岐阜県及び三重県)では27件^{※2}あり、そのうち人的被害(重傷、軽傷)が23件ありました。

自転車の誤った使い方に注意するだけでなく、日々の点検を心掛け、4月からの新生活を安全に始めましょう。

1. 自転車による製品事故発生状況

(1) 各県の年度別 事故発生件数

表1に自転車による製品事故の「県別」及び「年度別」の事故発生件数を示します。

表1 「県別」及び「年度別」の事故発生件数(単位:件)

年 度	静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	合 計
2013 年度	2	11	0	0	13
2014 年度	0	5	0	0	5
2015 年度	0	2	1	0	3
2016 年度	0	0	0	0	0
2017 年度	1	5	0	0	6
合 計	3	23	1	0	27

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※2) 2019年2月28日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

(2) 各県の被害状況^{※3}別 事故発生件数

表2に自転車による製品事故の「県別」及び「被害状況別」の事故発生件数を示します。人的被害（重傷、軽傷）が多くを占めています。

表2 「県別」及び「被害状況別」の事故発生件数（単位：件）

被害状況 ^{※3}		静岡県	愛知県	岐阜県	三重県	合計
人的被害	死亡	0	0	0	0	0
	重傷	1	11	0	0	12
	軽傷	1	10	0	0	11
物的被害	拡大被害	0	0	0	0	0
	製品破損	1	2	1	0	4
被害なし		0	0	0	0	0
合計		3	23	1	0	27

(※3) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 東海4県の年代^{※4}別 被害状況別 事故発生件数

図1に自転車による製品事故の「年代別」及び「被害状況別」の事故発生件数を示します。東海4県では、10歳代の事故発生件数が最も多く、次いで30・40歳代の事故が多く発生しています。

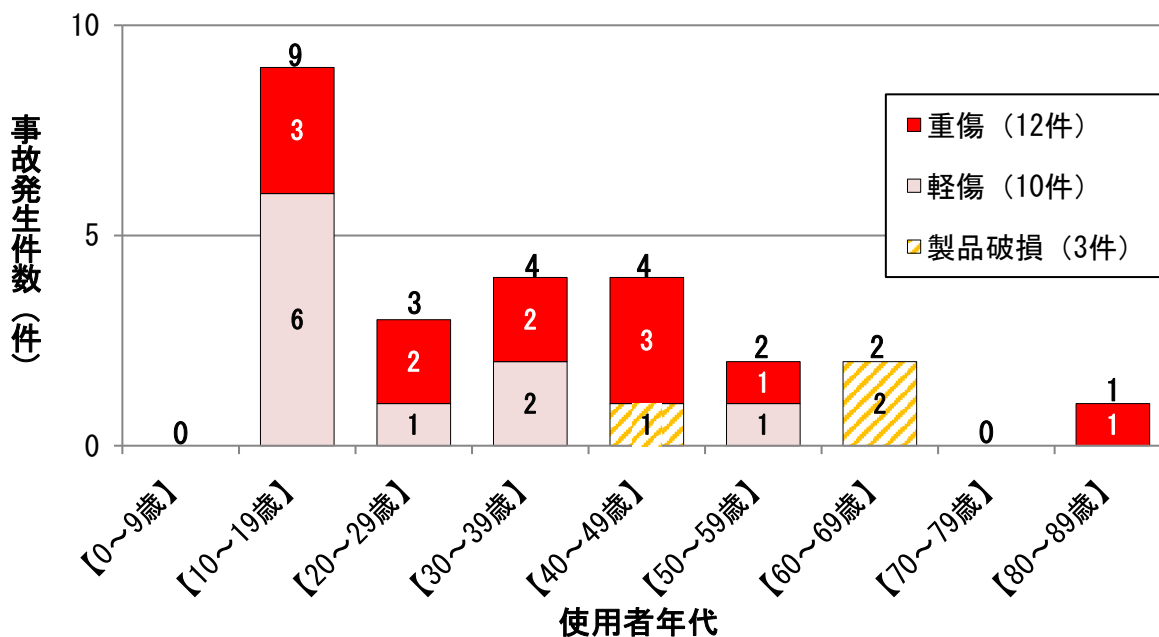


図1 「年代別」及び「被害状況別」の事故発生件数

(※4) 東海4県の自転車による製品事故27件のうち、使用者年代が判明した25件が対象。

(4) 東海4県の使用期間^{※5}別 被害状況別 事故発生件数

図2に自転車による製品事故の「使用期間別」及び「被害状況別」の事故発生件数を示します。東海4県では、使用期間が1年以内の事故が最も多く発生しています。

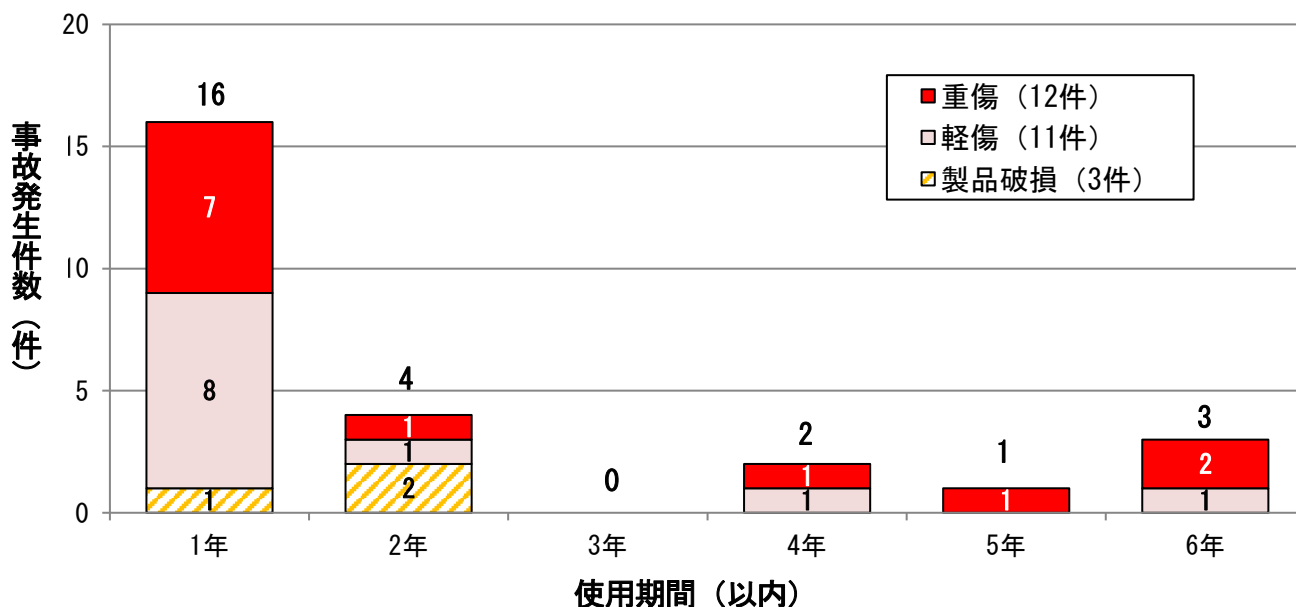


図2 「使用期間別」及び「被害状況別」の事故発生件数

(※5) 東海4県の自転車による製品事故27件のうち、使用期間が判明した26件が対象。

2. 自転車による製品事故の事故事例**(1) 前輪がロック^{※6}した事故**

2013年12月（愛知県、10歳代・男性、重傷）

【事故内容】

自転車で走行中、前輪がロックして転倒し、負傷した。

【事故原因】

自転車で走行中、前輪と右ホークの隙間に何らかの異物が入り込んだため、前輪がロックして転倒に至ったものと推定される。

(※6) 車輪の回転が阻害されたまま、滑走する状態を指す。

(2) ハンドルが外れた事故

2015年10月（愛知県、20歳代・男性、重傷）

【事故内容】

自転車で走行中、ハンドルが外れ、転倒し、負傷した。

【事故原因】

自転車は、ハンドル角度調節部の軸を固定するねじが緩んで外れたため、走行中に軸が抜けてハンドルが外れ、転倒に至ったものと推定される。使用者が軸固定ねじが外れ、軸が抜けかかるのを直しながら継続使用したことも、事故発生に影響したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「異常（変形、ひび割れ、ねじの緩みなど）を確認したら乗らない。」旨、記載されている。

(3) 前輪が外れた事故

2017年10月（静岡県、40歳代・男性、重傷）

【事故内容】

自転車で走行中、前輪が外れ、転倒し、負傷した。

【事故原因】

使用者が自転車のフロントキャリアを取り外した際、前ハブ軸の固定ナットの締め付け不足があったため、走行中の震動等により固定ナットが緩み、段差に乗り上げた際に前輪が外れて事故に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「車輪の脱着後、締め付けを確認せずに乗らない。」旨、記載されている。

3. 自転車による製品事故の実験映像について

自転車による製品事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

■映像の提供について

提供する映像へのクレジットは「製品評価技術基盤機構+nite ロゴ」としてください。



写真 静止画例

(本件に関するお問い合わせ先)

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中部支所

支所長 葛谷 弘之

担当者：製品安全技術課 酒井、横田、西村

電話：052-951-1933 FAX：052-951-3902